

冬に吟

金城

阿多しきや梅や葉を写しとり 自専

小清もやふむ語り 枇杷此もれ 雲鴉

ぢく 免くか 靴 履 冬乃里 榎角

大豆多く香の夕うねや 藪小語 右业

若士あちく 詠ふものを名に梅 丹霞

酒ふのしほや 新シ電トのぬれ松葉 巨井

あめしほは 唇をくく 比呂尼 やさし

三葉芳 望のらもろす ぐ 雪のてい 秋呆

